

★ 頑張る集落営農⑬ ★



農政課では高齢化による農業の担い手不足に対応するため、集落営農組織の育成を支援しています。集落営農について関心のある方は、お問い合わせください。

1. 集落営農組織名

特定農業団体 小城営農組合 代表 成原 昭雄

2. 所在地

国東市武蔵町小城

3. 設立年月

平成18年3月

4. 構成戸数

24戸

5. 主な経営内容

【経営面積】自作地 0ha 借入地 5ha
特定農作業受託 0.6ha

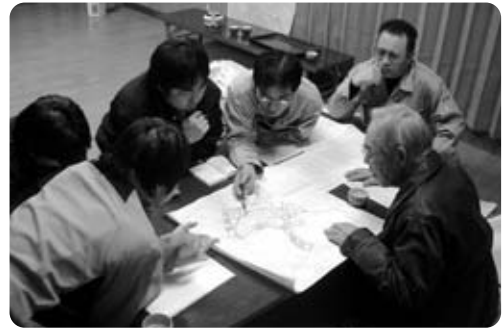
【作付面積】米 1ha 大豆 1.6ha 麦 0.5ha

6. 集落営農に取り組んで良かったこと

- ・ 荒廃田がなくなったこと
- ・ 人間関係が出来て地域の農業を守って行こうという気持ちが高まったこと

7. 今後の展望、抱負

- ・ 大型機械の導入、コストを下げた農業経営、麦・大豆・米を中心に面積拡大を図るなど、所得の向上を目指したい。
- ・ 小城には加工グループ（むつみ会）があり、小城観音みそや各種のまんじゅう等を加工販売している（里の駅むさし他）。組合で生産した麦、大豆、米を使って加工販売をしたい。



▲営農計画作成風景

問い合わせ

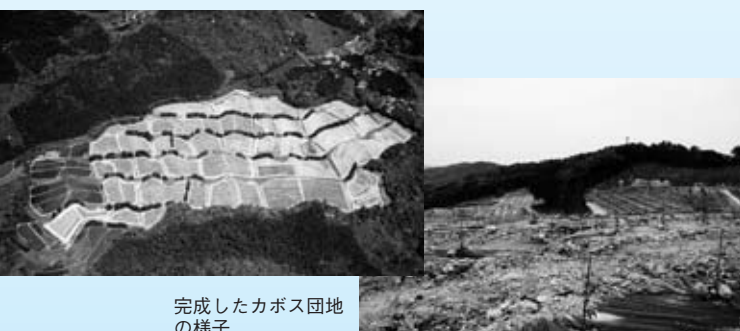
国見総合支所地域産業課 ☎82-1113
武蔵総合支所地域産業課 ☎68-1115

農政課 ☎72-5167
安岐総合支所地域産業課 ☎67-1116
大分県東部振興局農山漁村振興部集落・水田班 ☎72-0409

カボス団地が完成

株式会社ハマノ果香園（濱野光展代表取締役・国東町小原）が、国東町上小原に整備していたカボス団地が5月に完成しました。同社は、平成19年に国東市への進出を決定し、昨年度から国・県・市の補助金を活用し整備を行ってきました。団地は荒廃したミカン園を造成し、栽培面積22haに17,000本のカボスの苗木が植えられ、作業道を多く整備し省力機械化栽培を可能とした造りになっています。

今年植栽されたカボスの苗木は、平成24年には160トンの初収穫が見込め、平成30年には500トンの収穫を目指しています。



完成したカボス団地の様子

第3回東部地区乾椎茸品評会

全国乾椎茸品評会での上位入賞を目指し、大分ブランド向上のための品評会が東部地区森林・林業活性化協議会（会長・八坂恭介杵築市長）の主催で4月30日（木）、市役所安岐総合支所で開催されました。

品評会は乾椎茸の部門（どんこ・こうこ・こうしんの3部門）とほだ場の部門で行われ、国東、杵築、速見、別府地区から170人・247点の出品があり、乾椎茸各部門の一位となる優等賞に、国東市から国東町小原の鹿島戦一さん、国見町赤根の園田豊稔さん、安岐町明治の村上幸吉さん、ほだ場の部門の最優秀賞に武蔵町丸小野の三浦トヨ子さんが選ばれました。



（左から）鹿島戦一さん、三浦トヨ子さん、村上幸吉さん、園田豊稔さん